※文字の大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、（写真 1）（表 1）などと文中に記載し、右ページに（写真 1）（表 1）などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は、変更可能です。
※いずれの場合も、必ず A３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

【様式１】

＜エントリーシート＞	部門　研修成果活用　部門 平成 28 年度 第４回中堅教員研修	学校名・氏名 山口県立岩国工業高等学校 穂森　克彦
※ 事 務 局 記 入 欄 No.：　A － 5	活動名 コミュニティ・スクール実践 みんな先生　町のみんなが繋がっている	

課題の設定：

①実業高校である本校は、ものづくりに関するある程度の技能・技術を習得した教員がいる。
②学校外での活動は少なく、コミュニティ・スクールを実践するにあたり、外部との接触が必要と考えている。
③地域のニーズに応える学校づくりが必要。学校運営協議会の発足、学校を核とした地域の創生。
　以上から、学校内の技能・技術を発信するため、4 つの学科が連携して活動する、「岩国工業高校４科連携・ものづくりによる地域貢献」を平成 29 年４月から始めた。

方針・計画： ※課題を解決するために仮説を立てて、活動内容を組み立てたのか、記載してください。

　岩国工業高校 4 学科（機械科・電気科・都市工学科・システム化学科）で学んだ技術・技能を生かしものづくりで岩国市を PR しようと教員団で計画を発案。名勝「錦帯橋」など観光資源を活用することを考え、PTA、岩国市役所・市民協働推進課に連絡する。岩国市の観光 PR などを手掛けられないか相談。高校生でもできるものづくりによる地域貢献が実践できるのではないかと考えた。

活動内容： ※方針・計画に基づいてどのような活動を行ったか、また、複数の活動を展開した場合はその位置づけや関連性を記載してください

　①名勝「錦帯橋」は全国的にも有名で知名度が高く岩国市の観光資源の一つである。他の観光施設にもあるフォトスポットに自撮り用のスタンドを設置すれば、全員が美しい景色をバックに写真撮影ができると考え、自撮りスタンドを製作し取り付けることを提案した。
　②玖珂地域に伝わる「玖珂縮織り」の技術の伝承と地域名産品の PR を行ってはどうか。と考え、機織り機を製作し、実演を行うことを提案した。
　③岩国レンコンが特産品として有名なので、収穫の労働力を軽減できる装置ができないか、特産品をもっと知ってもらうためにお菓子などの商品開発ができないかと考え、レンコンチップスを作ることを提案した。
　④JR 岩国駅の新築工事が行われており、新しい駅舎に岩国市の観光案内マップを設置してはどうかと考え、3D プリンターで立体的な建物を配置した観光案内マップを製作することを提案した。

活動の成果： ※課題や目標に対し、どんな影響、変化あったか、職員や参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

　機織り機を製作し、観光案内所に展示していただくことで、玖珂縮の存在を知っていただく機会となった。また、玖珂縮の会による土・日曜日に実演教室を開催することになった。当初は生徒が実施する計画であったが、３年生を対象にしていたため卒業を迎えてしまったので、生徒による実演は出来ていない。
　２年目を迎え、社会福祉協議会の企画である「錦帯橋を車いすで渡るプロジェクト」への協力参加を決め、本年度の４科連携ものづくりによる地域貢献活動とした。

アピールポイント（アイディアや工夫）： ※3～5 つ程度の箇条書きしてください

・生徒主体で活動し、生徒の自己有用感、自主性が養われ、学校外の関係者と話をすることで、コミュニケーション能力が向上した。また、技能・技術の向上が実感できた。
・地元の特産品や技術を知ることができ、問題を一人で抱えず発信し共有することで、その生産者や技術者とも関係が持てたり、解決策を持っている人と繋げてくれたり、ネットワークの大切さを実感できた。

＜写真、図表添付欄＞　　生徒の岩国のイメージ

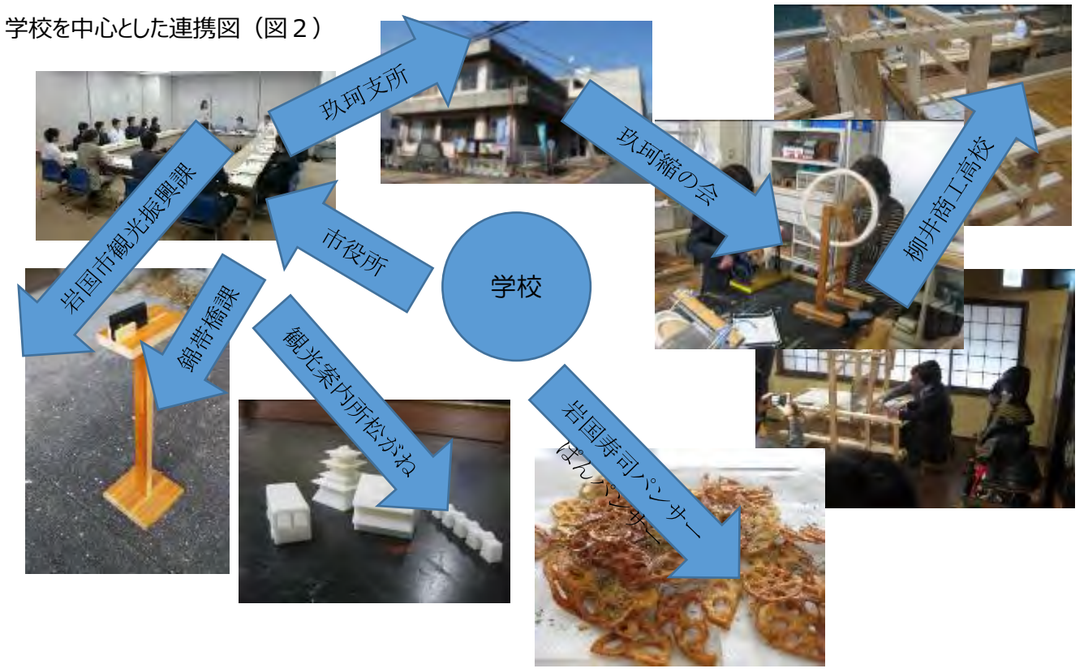
　岩国工業高校４科連携ものづくりによる地域貢献を行うにあたり、生徒の岩国市に対するイメージを挙げ、地域の活性化や身に付けた技術、技能を生かせることができる場面を考えた。（図１）

生徒が考える岩国市のイメージ（図１）

　図１のようなイメージから、自分たちに出来ること、やってみたいことを話し合いにより４つに絞る。
①錦帯橋のフォトスポットにスマホスタンドを設置したい。②玖珂縮をＰＲして有名にする。
③特産品の岩国レンコンの新商品を開発する。④観光案内マップを製作してＪＲ岩国駅や錦帯橋付近に設置したい。

　生徒のイメージを形にするために、「何処に」、「誰に」、「何を」聞いたらよいのか教員団で打ち合わせ、根回しを行う。
　生徒は、主体的に「何処に」、「誰に」、「何を」聞いたらよいのか話し合いを重ね、電話連絡を取る。

学校を中心とした連携図（図２）



　学校の活動に対して行政や企業はどのように関わってよいか分かっていない。また、教員も関わる方法を知らない。このような状況だったが、まずは「やってみよう」という精神で思いをぶつけてみた。行政や企業も同じ思いで関わり方が分からないだけで、何かしたいとは考えていたようだった。さらに、各担当者はいろいろなアドバイスや要求を生徒に分かりやすく伝えてくれたので、生徒もイメージしやすくいろいろなものづくりを実行することができた。
　平成３０年度は社会福祉協議会が行っている「錦帯橋を車いすで渡ろうプロジェクト」や「防災マップづくり」、「スマホスタンドづくり」を行っている。